

## 肉用牛生産農家の経営に対する緊急要望

肉用牛は、飼料や燃油、各種資材等の価格高騰によりこれまで経験したことのない生産コスト高に直面しており、加速化する小規模農家の廃業は、特に肉用牛が農業生産の基幹である中山間地域において、地域の存続さえも左右する重大な局面をもたらしております。

現在、物価高に伴う消費者の節約志向などによる枝肉相場の低迷が肥育農家の購買意欲の低下をもたらし、子牛価格が暴落しております。繁殖農家、肥育農家ともに、特に若い担い手のモチベーション低下や小規模・高齢農家の廃業が加速することが危惧されております。

このような状況を踏まえ、県におかれましては、国の支援策に連動した県単独の繁殖農家への緊急支援策を新たに創設していただいたところではありますが、宮崎牛の生産基盤を守るためには、肉用牛生産農家の今の窮状を救済するための緊急的な消費拡大対策を講じるとともに、持続可能な経営を行うための長期的な生産基盤の強化策が必要不可欠であると考えます。

つきましては、下記事項について、国に要望するなど特段の措置を講じられるよう強く要望いたします。

### 記

- 1 国や県において、セーフティネット対策の拡充等が図られているが、今後とも肉用牛生産農家が安心して経営を継続できるよう、子牛価格や枝肉価格等の情勢の変化を見極めた上で、引き続き、国と県で連携した対策を講じていくこと。
- 2 最近の枝肉価格低迷等に伴う子牛価格の下落は想定を大幅に超えるものとなっていることから、国の「和牛肉需要開拓支援緊急対策事業」に加え、県独自の消費拡大キャンペーンを行うなど更なる消費拡大対策を講じること。
- 3 国産飼料の生産拡大及び自給率の向上を図るため、耕種農家と畜産農家の地域内外における円滑なマッチング（耕畜連携）の取組を一層加速するなど、効率的かつ安定的な自給飼料作物の生産振興及び利用に向けた対策を強化すること。

令和5年10月3日

宮崎県町村会

会長 佐藤 貢